



# 平成21年度高等学校卒業証書授与式

# ご卒業おめでとう

卒業生の皆さん、この卒業おめでとうございます。皆さんのがこれから向かっていく日本社会は、超高齢化や人口減少、長引く経済低迷など、厳しい環境になっています。最近のショック的なニュースは、中国の国内総生産（GDP）が、遂に日本のそれを追い抜いてしまったことです。そのような中、皆さんはどうか自分の力を信じつつ、また仲間同士助け合いながら、全力で生きていくてもらいたいと思います。

さてこれまでの学校生活とは違つて、皆さんには「おとな」としての様々な「自由」が与えられるでしょう。しかし自由だからといって、



には必ず「責任」が伴うこと、を、しっかりと自覚してください。そのことが世の中をうまく動かすことにもなり、また自分の自由を本物にすることができるのです。

卒業する皆さんには、もうひとつお願ひしたいことがあります。それは何事にも挑戦する姿勢を保ち、決して諦めないでほしいということです。昨年話題となつた、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ」の快挙は皆さんも記憶していることでしょう。地球と月の距離の数千倍も遠いところをさまよっている小惑星「イトカワ」に、無人探査とはいえ人類史上初めて到達しました。

小惑星の砂粒を地球上に持ち帰るという快挙を成し遂げましたが、その過程は極めて厳しいものでした。まず最先端技術を駆使したイオンエンジンが、4基のうち3基も壊れ、残る1基を使って気の遠くなるような距離を飛び続けました。加えて通信装置が一時故障して、行方不明になる事態もありました。当初の予定では

自分の針路  
というこ  
なことが三  
も、人生と  
路や目指す  
迎えるわけ  
から人生  
たちの成長  
こられた  
も、心から  
ます。  
れた皆さん、  
づございま  
した。決し  
に勇気を与  
ていた「は  
的的な魅力を  
した。決し  
やぶさ」の  
話ながら一  
が、私たち  
した。

うか「はやぶさ」のよう  
決して諦めず、一つの目標  
に向かってしっかりと進  
でください。努力を積み  
ねれば、必ず目標に到達  
します。皆さんの今後のご活  
きを、心から祈っています。

す。躍で重んじるに標榜する。この單行は、まことに頑とて、うとう波ざます。

いご理解とお詫びを込めて御礼申します。さて、晴れの飛躍を願ひ、全課程を終った一步を跨している卒業生に贈ります。

二点目は、自分の力で漕ぎます。いくつかり決めたつくり自分で苦労をしきれない限り、づけません。なたの舟はあるのであつて、でもないのでもないのだから、他の人に代わらうことはでうまく進まなくて、親のせいにしてふてどんどん目的結果として損な自身です。の風が逆風で

「自分の舟は『く』といふこと、『ら針路をしつら』といつて誰かなりに漕いでも、自ら舟を漕ぎ続

「多くの分野に言えることである広く人口に膾炙している「続は力なり」という格言とも相通じる言葉です。高校の三年間、皆さんは学業や部活動をはじめて、多くの経験を積んできたはずです。その経験も、この道へつながる重要な財産となるでしょう。

嵐 う 来が人國と行を行を唯進努力く波の積めん言継  
はつきも  
いたり、  
して前に  
は人生と  
したら嵐  
と、その  
碎きがち  
ありません  
とは、嵐  
めてしま  
それだけ  
ぎ戻され  
破しよう  
をやめた  
ず近づく  
より強く  
つて、里  
恵みとな  
難を怖わ  
満ちたと  
の航海を  
ださい。

の嵐は、試練で大きくなれることがあります。どうか必ず、感動と喜び人生というこれかぎりの上手いとは言葉が、転職した機関で彩画を始めた友人とのことです。彼の作品は、年と根気強く継続して、ぐうたらに上達し、開くまでになりま

晴れて卒業されたみなさんは、おめでとうございます。みなさんは、学業に、部活動に、した高校生でした。あれ、多くの思い出をもつと思います。新たな目標と進学され、大学、短大として社会に出て、経営コンサルタントに分かれて、井幸雄さんの処理のクセがります。来良い人材に、時処理のクセです。即時処理

心から期待  
校同窓会長  
処理のク  
業の日を迎  
さん、ご卒業  
ざいます。  
はこの三年間  
活動にと充実  
活を送つてこ  
の友達と沢山  
作られたこと  
これからは  
と夢を持つて  
専門学校へ  
出られる方と  
の方と、就職  
行かれます。  
ルタントの船  
語録に「即時  
なる為には「即  
づけ」が大切  
みなさんが將  
理とは「すぐ

「セ付け」を  
大渕皓之

よい仕事を沢山できる可能性が高まり結果的に世の為、人の為になるように思われます。

それとは反対に何でも後回しにしてしまう人はやるべき事がたまつてしまいスケジュール自体もうまくいかなくなります。そうするとますます仕事がたまつてしまい、結局につちもさつちも行かなくなるのです。何とか時間に追われながらできたりがちで、結果的にトラブルを生み信用を落とすことにもつながってします。

将来を大きく左右するとも言えるこの「即時処理のクセづけ」を行ったいものです。

みなさんの今後の精進と活躍を心より願っています。

## 「はやぶさ」に学べ

理学院長 船田元

# 新學院

発行所  
宇都宮市一の沢1-1-41  
作新学院  
編集委員会  
卒業号編集印刷所  
株式会社宮本印刷

平成二十二年度作新学院卒業式日程

A circular portrait of a middle-aged man with short, light-colored hair and glasses. He is wearing a dark, possibly black, sweater over a white and blue horizontally striped shirt. The background is plain and light-colored.

# 倦まず怠らず

# 倦まず怠らず

——倦まず怠らず、年

中には、月を抱いた  
しよう。  
業してか  
続けて欲  
たとえば  
あります

特に興味・関心  
なことがあつたで  
皆さんには、卒  
からもそれを追い  
欲しいと思います。  
、「こういう自分  
した。その絵の進歩には  
大変驚かされた経験があ  
ります。まさに「倦まず  
怠らず」に「励み努力」  
た結果、達成できたとい  
うことなのでしよう。  
どうぞ皆さんも高校時

やること」です。できるだけ物事をその場で処理してしまうこと、やるべきことをすぐにやってしまうことです。特に仕事で即時処理のクセづけは大変重要なことです。例えば取引先から

## 新学院新聞

## 小学部 井上友貴

桜の花びらが舞う中、ドキドキしながら通つた白い門。六年前には大きく見えたこの門も、今ではもうとても小さく見えます。この白い門を見ると、今までの六年間が思い出されます。入学からもう六年がたち、三月に私たちは卒業を迎えます。

思い返せば六年間、いろいろな思い出がありました。先生方からは、積極的に物事に取り組むこと、協力しあうことの大切さ、相手を思いやる心など、教えられないほどのことを学びました。また、どんな時でも優しくあたたかく見守つていました。

私は、この二年間でとてもたいと思います。先生方、在校生のみなさん、本当にありがとうございました。

私たち感謝の気持ちを忘れず、夢へ向かつてきました。

## 中等部 中野友寛

たいと思います。先生方、在校生のみなさん、本当にありがとうございました。

私は、この二年間でとても多くの事を学ぶことができました。技術の成長はもちろん、心の成長もできました。人の為に何ができるか。お客様の立場になつて物事を考える大

## 卒業生の言葉

## 理美容 小川智弘

## 大学

## 進路状況

## 幼稚園

## どんど焼き

新しい年を迎えた1月14日、幼稚園ではどんと焼きが行われ、子ども達や幼稚園の無病息災を願いました。

子ども達に伝統行事を体験させたいと、昨年度から始まつた行事です。当日は天気も良

く、風も無かったので、どん

ど焼き日和でした。子ども達が家庭から持ち寄った正月飾りやお守り、お札などを年中

前日の日に自分達で作つたまゆ玉を火や煙にかざしました。

このまゆ玉作りでは、「きれいな色だね」「なんだが、おませながら、楽しい雰囲気の中で自分の手でこねて丸め、そして茹でたまゆ玉を枝にさし、出来上がりました。どん

ど焼き終了後、それぞれがうれしそうに家に持ち帰りました。

伝統行事が薄れていく昨

今、こういう行事一つ一つを大切にしていきたいと思つています。

火。どんどん火力が増し、パンと大きな音が鳴る度に上がつてきたね」などと歓声が上がりました。最後に、

「上がつてきたね」などと歓

声が上がりました。

玉を火や煙にかざしました。

子ども達から「すごい!」煙

が上がつきました。最後に、

「上がつてきたね」などと歓

声が上がりました。

玉を火や煙にかざしました。

子ども達から「すごい!」煙

が上がつきました



たまごパック2176個を利用したモニュメント



この心を動かし、日を追うごとにその数は増えていきました。さらに活動は、保護者の皆さまを通じて地域の風を通じて卒業生や作新学院に関わる方々へと大きく広がりました。学院を訪ねる折、持つて来て下さる方もたくさんおられます、また、卒業した後も家庭で集め、届けてくれる生徒もあります。更に出かけた先でも、キヤップを外し持ち帰る習慣さえ見に着くほど、活動は定着しています。

この度、200万個達成を記念して冊子を発行することができました。各設置校の活動の様子や園児・児童・生徒たちの想い、活動(部活動活性化プロジェクト)

去る9月4日(土)、5日(日)の2日間にわたり、創立125周年記念文化祭が「GO(5)! GO(5)! GO(5)!」、「新しい青春の1ページを!」をテーマに開催された。125周年という節目にふさわしく作新学院の更なる飛躍を伝えるメッセージとなつた。期間中は、例年にも増して充実した展示やパフォーマンスが繰り広げられ、来校者にご覧いただいた。

正門前に廃品ドラム缶を利用して作つた工コロボット「アースくん」がお目見えした。卒業生の速水浩平さんが発明した音力発電のしくみを利用したもので、情報科学部の電気・電子システム科の3年生が制作した。口ボットの前には踏むと発電するマットが設置されおり、近づくと自分が光り、話もする。

ロボットの声を担当した小学部4年の吉田旭陽は、「ロボットの声をみんなが聞いてくれてうれしい。元気よくみんなに呼びかけるように声を出した。」と目を輝かせて話した。

